



ヒグマ
Ursus arctos

豊かな森の生活者
クマと共存するために

クマを知って
事故を
防ごう!



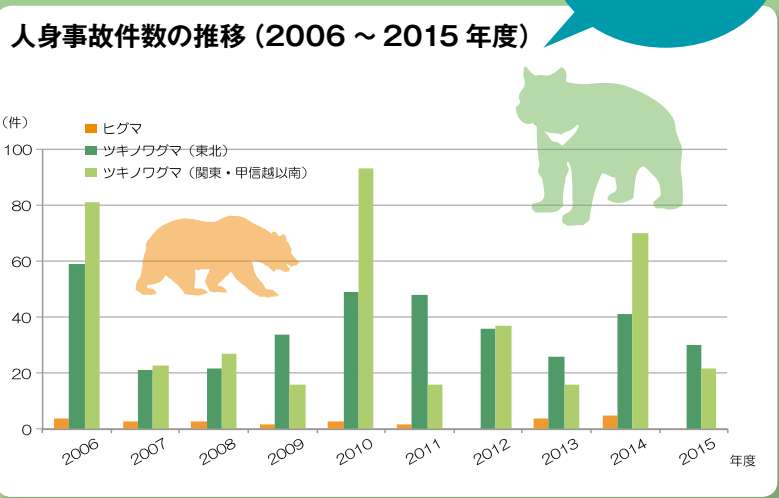
ツキノワグマ
Ursus thibetanus

人とクマのあつれき

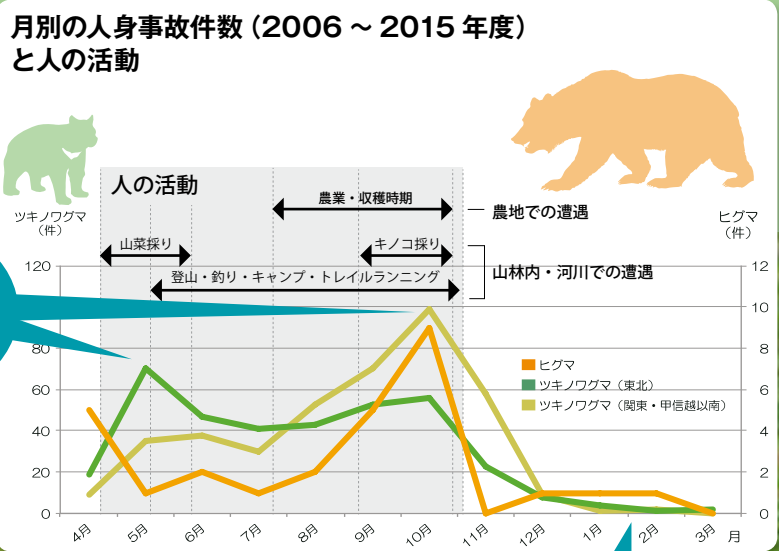
年度による
ばらつきがある!

近年、人とクマのあつれきがメディアを賑わせることが多くなってきました。クマは本来、人目を避けて暮らす動物ですが、残念ながら人とクマの間にはトラブルが発生しています。

シカやイノシシなどは農業被害が中心ですが、クマの場合は人身事故の問題が中心となっています。人とクマが折り合いをつけて生活するためには、何が必要でしょうか。まず、問題となっている人身事故の推移を見てみましょう。



大量出没年※には、農地・住宅地・屋内での事故事例が増加する傾向があります。
 ※例年と比較して多くのクマが普段生活しているエリアから人里へ出没し、それに伴い捕獲数も顕著に多い年のこと。ドングリ類の不作などいくつかの要因が考えられています。



人が山に入る時期に事故が多い

冬眠期間中の事故もある



クマはこんな動物 ~クマを知って事故を防ぐ~

クマは基本的には人を避ける動物です。しかし、突発的に出会うと防御的な攻撃を招き、危険な場合があります。このため、クマのことをよく知ることが重要です。

クマは、季節や年によって食べ物を柔軟に変化させます。クマの餌場となる場所にはできるだけ近づかない、また近づく必要がある場合は十分に注意しましょう。

基本的な食べ物は植物中心ですが、機会があればシカの死体などの動物質も食べます。



山菜採りでは、クマも人も夢中になっているので要注意!!

クマの特技

- 鼻・耳がよい**.....
- ▶ 食べることに夢中になると周りが見えなくなることも!
- 学習能力が高い**.....
- ▶ 人間の食べ物の味を覚えると、執着します!
- 足が速い、木登りがうまい**.....
- ▶ 出会った時は冷静に対処しましょう!

出会った時の対処法は.....P5



クマの分布

日本には、ヒグマとツキノワグマの2種類のクマが生息しています。ヒグマは北海道に、ツキノワグマは本州以南に分布しています（九州では絶滅したとされています）。

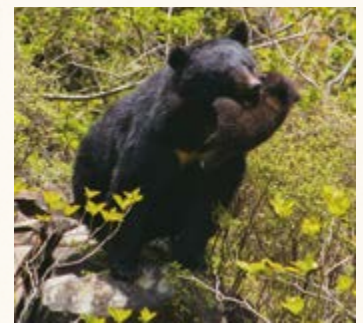


ヒグマ
(オス) 150-300kg
(メス) 100-200kg

人間の生活圏近くに分布が拡大している地域も多い。環境の変化や社会的な変化が考えられている。

分布が
拡大している

- 第6回自然環境基礎調査(環境省 2004)
- 分布拡大地域(2003~2012年)
- 絶滅のおそれのある地域個体群(日本クマネットワーク 2014を改)



ツキノワグマ
(オス) 70-150kg
(メス) 50-100kg

クマの個体数は??

クマの個体数を推定するために、各地で様々な方法が試みられていますが、十分な精度をもった全国的な個体数は明らかになっていません。また、出没件数や目撃件数は、必ずしも個体数の動向を反映しているわけではありません。

Topics

絶滅のおそれのある四国山地のツキノワグマ

かつては四国に広く分布していましたが、現在では剣山^{つるぎさん}を中心とした限られた地域でしか生息が確認されていません。

生息数は1996年時点で多くて数十頭と推測されていましたが、近年では10数頭しか確認されておらず、絶滅の危険が極めて高いため積極的な保護施策が必要です(環境省レッドデータブック2014で「絶滅のおそれのある地域個体群」として掲載)。



四国山地のツキノワグマの分布域

クマと共存するためには～対策と取り組み～

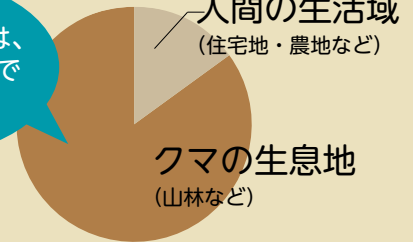
人身事故は、クマの生息地で発生するものと人間の生活域で発生するものがあります。それぞれの状況に合った対策や取り組みを行うことが重要です。

出会わないことが
もっとも重要!



多くの人身事故は、クマの生息地内で発生している

人身事故が発生した場所の環境の割合



※日本クマネットワーク(2011)で示された人身事故が発生した場所の環境のデータから「不明」を除き、大まかに示した。

クマの生息地で事故に遭わないために

●クマと出会わないために

- 自分の存在を知らせる
 - ▶ クマ鈴やラジオなど、音の出るものを携帯しましょう
 - ▶ 見通しの悪い場所や、沢沿いなどの音が聞き取りにくいところでは、声を出したり手をたたいたりして存在を知らせましょう
- クマの生態や行動についてよく知る
 - ▶ 各季節のクマの食べ物や生態を知ること、遭遇を避けられる
- 目撃・出没情報のあったところには近づかない
 - ▶ 自治体のHP やビジターセンターのHP など公開
(例: 日光湯元ビジターセンター
http://www.nikkoyumoto-vc.com/nature/kuma_d.html)
- クマの新しい痕跡(糞、食痕、爪痕など)があった際は十分気を付ける
- 春と秋は事故も多くなる傾向にあるので特に注意



クマ鈴



クマの爪痕

●クマに出会ってしまったら…まずは落ち着きましょう!

(下記は一例です。詳しくは <http://www.shiretoko.or.jp/library/bear/>)

- 距離が離れていた場合(クマがこちらに気付いていない)
 - ▶ ゆっくりと静かに立ち去る
- 比較的距離が近い場合(50m程度)
 - ▶ 両腕をふりこちらの存在をクマに知らせ、クマから目を離さずにゆっくりと静かに後退する。森林内であれば、万が一の突進に備えてクマとの間に障害物がくるようにする。
- 距離が近い場合(20m程度)
 - ▶ クマがパニックになり突発的な攻撃をする可能性があるため、刺激しないことが大切。走ったり大声を出したりせず、クマから目を離さずにゆっくりと静かに後退する。森林内であれば、万が一の突進に備えてクマとの間に障害物がくるようにする。
- クマが突進してきたら(威嚇突進)
 - ▶ 威嚇突進の場合は、途中で止まり後退することが多い。落ち着いて、クマとの間に障害物がくるようにゆっくりと後退する。
- クマが突進してきたら(本当の攻撃)
 - ▶ クマスプレーを目や鼻をめがけて噴射する。
クマスプレーがない場合は、防御姿勢をとる。

子グマに注意!

近くに必ず母グマがいます。
母グマは子グマを守るために特に攻撃的になりやすいです。



クマスプレーの発射準備!

人間の生活域で被害に遭わないために

クマによる人身被害・農業被害の発生は、必ずしもクマの個体数の多さに比例しません。クマは広い行動圏を持ち、鋭い嗅覚を持っているため、放置された廃棄農作物・放棄果樹（カキ・クリ等）、残飯などの誘引物は、遠く離れたところで生活しているクマも人里へ誘引してしまいます。

人とクマのあつれきを減らすためには、棲み分けを図り、問題を発生させるクマをつくらないことが重要です。

周辺環境をチェック!

クマを
寄せ付けない
ことが重要

- 誘引物（放置果樹、廃棄農作物、生ゴミなど）の除去
- 農耕地等への電気柵等の設置と管理
- クマの集落周辺への侵入や一時的な定着を防止するための耕作放棄地等の整備や藪の刈り払いなど

取り組み① 電気柵の設置（猪苗代町）

集落内や集落周辺の農作物などは、ツキノワグマを強く誘引します。猪苗代町では、集落にツキノワグマを誘引・執着させない取り組みとして、電気柵の貸与や導入費の補助などを通じて、電気柵の普及を進めています。被害を受けた住民に対し、町が電気柵を試験的に貸与し、その防除効果を実感してもらうことで、購入に繋がっています。



トウモロコシ畑に設置した電気柵

取り組み② 河畔林の環境整備（札幌市）

市民団体が中心となり、ヒグマの市街地侵入経路になっている河畔林において、出没抑制対策として下草刈りや流木除去などの整備を行っています。地元住民、行政、専門家が協力して実施しています。



藪の刈り払い前



藪の刈り払い後

国や県の取り組み ～クマの保護・管理に向けた総合的な取り組み～

環境省

■ 特定計画※ 策定・運用のためのガイドラインの作成

環境省では、都道府県が適切に特定計画を策定し、運用できるようガイドラインを作成しています。

※特定計画とは、専門家や地域の幅広い関係者の合意を図りながら、科学的で計画的な鳥獣の保護・管理について中長期的な目標や対策を設定するもの。

■ 最新の研究や取り組み事例の収集と普及

環境省ホームページ「クマに関する各種情報・取組」に内容を掲載しています。

<http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/effort12.html>

・保護及び管理に関するレポート

最新の取り組み事例を自治体向けに普及

・クマ類出没対応マニュアル

クマの出没や被害を減らし、有害捕獲数を減らすことを目的としてクマ類の出没への備えと対策を記載

・クマに注意!

クマに会わないための工夫、クマに出会った時の注意事項を紹介

■ 研究支援及び研究成果の普及

・ツキノワグマの出没メカニズムの解明と出没予測手法の開発

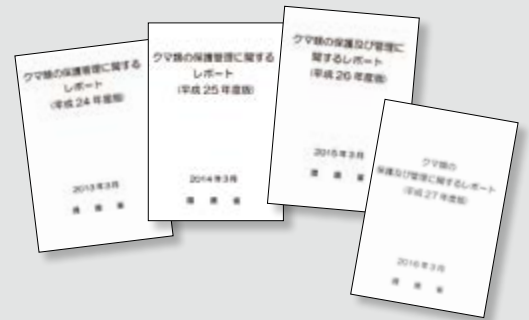
- ・ツキノワグマ出没予測マニュアル
- ・大量出没の原因と出没予測

・クマ類の個体数推定法の開発に関する研究

http://www.bear-project.org/houkokusho_ronbun.html

■ 広域的な連携の支援

・白山・奥美濃地域ツキノワグマ広域保護管理指針



農林水産省

■ 農作業中のクマ出没等に関する注意喚起

農作業に当たってのクマに関する注意事項を紹介

http://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/pdf/kuma_leaflet.pdf

■ 農業等への被害防止のための柵の設置や追払い等の取組の支援

市町村が中心となった地域ぐるみの被害防止の取組を「鳥獣被害防止総合対策交付金」により支援

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/tyozyu/higai/pdf/28pr.pdf>

都道府県

■ 特定計画を策定し、計画的な保護・管理施策を実施

■ 目撃情報や出没情報の収集及び情報提供



クマによる人身被害は毎年発生しており、時には痛ましい死亡事故になることもあります。こうした事故は、人においてもクマにおいても不幸なことです。

クマの生息地内の餌が不足するときには、餌を求めて人里近くまで出没することがありますが、本来クマは人を避け、森の奥深くに生息しています。

生息地である森を開発・利用してきた私たち人間が、クマの生態を知り、例えば、藪の刈り払いをすること、庭の果実を除去すること、事故が起こった場所には立ち入らないことなど、地道な取り組みを続けていくことが、クマと共存する道につながることを忘れてはいけません。

豊かな森の生活者 クマと共存するために

発行 2016年9月

環境省 自然環境局 野生生物課 鳥獣保護管理室

編集：一般財団法人自然環境研究センター

デザイン：株式会社アートポスト

写真提供：福井謙二、梅村佳寛、郡山尚紀、小林喬子、猪苗代町農林課